



幕末維新書留  
慶應三年一至四月

服部文庫  
417  
2189  
40





117 特  
2189  
40

西月



一 國府中及後  
一 主上御氣之受 御書生不取右叶同辨亦皆省清只越之身之月  
而後嫌明之也其在之乎  
一 書法明和信之乎  
西之通白之之也

西月

一 西月  
一 主上御氣之受 御書生不取右叶同辨亦皆省清只越之身之月  
而後嫌明之也其在之乎  
一 書法明和信之乎  
西之通白之之也  
西月

服部文庫  
117  
8/3















人其不宗は孫子に傳ふに已むる事は波多御代に於て日本  
國に主として傳へられたる事にして其の神聖を蒙り  
朝廷に於ては天子の御座に坐す事にして痛恨劇切に情實を記  
し忘るる事にして其の事にして其の事にして其の事にして

高下

此の海防策を考へて其の事にして其の事にして其の事にして



京都府の府政に關する書状

三月十一日出向丸の首

先使申上りし御事所領の事にして其の事にして其の事にして  
一同退去肥後縣事にして其の事にして其の事にして其の事にして  
其の事にして其の事にして其の事にして其の事にして其の事にして  
併せて其の事にして其の事にして其の事にして其の事にして其の事にして  
其の事にして其の事にして其の事にして其の事にして其の事にして  
別して其の事にして其の事にして其の事にして其の事にして其の事にして  
南表海防策を考へて其の事にして其の事にして其の事にして其の事にして

別紙に別紙の中を参考せよ

平手島中津藩守房の御事

服部文庫  
117  
1291  
26157











拂二お生々趣

一 以表長州方分談判し趣意去十君降系改極押合ありとの由し然極  
 三三三降系去不此為改。公已氏ありし趣返答ありし由し知長州方正  
 向方小倉し我公已分是近一印傳故也又又滿薩薩接も不此重  
 十君極孤軍お本中長久生本乃改降系改史乃傳領分不極押領  
 比中我者早又君命付小極九牛一改此与押合お本也一知十君乃  
 傳返答者是近公已分 幸二 以乃脱文ありし  
 一 為月十の香春上死在乃志立系職中野一子小笠原公在傳乃中仁長  
 州分所越同十者下し其言談判にお本趣し不傳却君清後不本生れ  
 八異方極の嶋村也後小抄の押合お本也と其表に所出れる氏同極し  
 及存変候不此趣し其係右場五分為月廿日香春上引取お本小  
 趣お本也

一 右引取しと今せつ、こし傳返答可改小極、中引九香春上引取お本小倉

一 三日、物き少れ大、應りつちお本と夥多し、是より其は此れも  
 可考き、一昨二日終りつち、少れさなり、お本極傳、  
 一 少分た、高感、お本也

一 昨二日、終りつち、お本、其言、其船が長、こ、お本、や、お本、  
 とな、同、お本、お本、お本、お本、お本、お本、お本、お本、  
 一 幸、船、お本、お本、お本、  
 一 右、お本、お本、お本、お本、お本、お本、お本、お本、  
 一 探、お本、お本、お本、お本、お本、お本、お本、お本、  
 一 時、お本、お本、お本、お本、お本、お本、お本、お本、  
 一 後、お本、お本、お本、お本、お本、お本、お本、お本、  
 一 二、お本、  
 一 七、お本、お本、お本、お本、お本、お本、お本、お本、  
 一 駱、お本、お本、お本、お本、お本、お本、お本、お本、























支那國にて現に今西洋學をとりて者多し上海香港ハハ英美兩國學校を建設す  
此國人民筆墨をとりて其の身國の徒最夥一蓋一坤輿中其民を食ふ國支那と  
日本をとりて西洋書籍の代邦未だ未だ者拘獨英佛の書ハハ俄羅斯の書も渡りしと讀  
者少し其外葡萄牙瑞士等の書も渡りしと其書多し以て讀む人少し然し其西  
葡以瑞の言語文字甚備似たり此利時ハ荷蘭國分已た其言語佛印中獨  
逸語ハ荷蘭語の本不而語稍相似たりと云  
回教と奉法と諸國ハ紀元歐羅巴異今午午武百廿年南出りしと云  
亞刺伯波斯及印度海諸島を用ゆる文字ハハ世古の梵字の遺風ありて在り  
尤ハ横字を以て或ハ縦を以て一種の書と云ふと其六十字者有る古の梵字を今  
不度ハハ絶たりと云  
五刺伯國牛ハハ土高ハ土高  
土耳其歐西列諸國ハハ國ヲハ教部分ハハ教部ハハ巴札ハハ在る大馬と云ふ世守也  
此巴札教ハ國帝ハハ後ハハ支那

當今亞刺伯諸國歐羅巴通信セシ者ハハ朝鮮の領國也現ハ佛國と爭端と有る  
思ハハ此國一戰の後西人の教化を蒙り西國の文を讀み清國の語を免し獨立不羈の  
強國と云ふを以て  
安南國も西人と通交を以て四五十年前内北以群比佛國と戰敗地にて和議を行ひ  
當時ハ國勢頗る盛なり故國氣候太熱ハハ一歲兩熟文字ハ華字を用ひ錢ハ  
政和通宝かと年号を記す方ハ金貨を用ゆる故國と日本との別  
暹羅國先年より國政を改革して悉く歐羅巴の制度徒ハハ歐羅巴の留學子多し  
此國穀果再熟一米價極の賤く食食負良甚稀なり宗廟ハ佛教を奉る文字  
上等の人ハ漢字を學と海濱に任する職ハハレイス字を用ゆ  
諸國ハハレイス字々用ゆる漢字を解する有り而して英語を用ゆる也  
不度海諸島ハハ徳と英和兩國管轄ハハあり  
アフリカの東偏ハハカカルトハハ大島あり其地身衣日本より大なり氣候甚温和なり  
酷熱の統々ハハ四月全ハハ從て春なり土田頗る膏沃なり物産豊碩アフリカ洲中第一



















松室海峽

中日

二浦海峽

夜白浪水... 二月四日... 此中津去

- 佛國公使... 一乃古新令... 一浪之然即也

松平伊豆... 有本水... 二月

松平出羽守

一丸... 河橋...

一丸...

伊豆...

松平尉度... 伊豆...



抄本因信書

以書之京... 二月十日

二月

抄本古親方編

下也... 二月十日

紀伊中御書

徳川元代

二月十日

三月十日... 二月十日

中村書之由

先道... 二月十日

一併國公使... 二月十日

一旅... 二月十日

一市... 二月十日

一公使... 二月十日







獻馬標練の義を佛国官ヨリ書翰

軍古又ニニストル

松平後殿頭閣下

千八百六十七年才四月十六日則日本三月十二日

仏蘭亞國元帥軍古又ニニストル去才二月十二日附の達去ヲ以テ仏蘭亞帝ヨリ

大君ニ贈レル馬ニ拾五匹程無ク到着不可キ又ラ音ニ申送レリ下士官及騎兵六合セテ十

四人ノ援軍ヲ士官一人指揮シテ其馬ヲ護送ス此後軍到着ノ節ハ横濱又ハ江戸迄テ

諸ヲ往取ルノ支度ヲ閣下命ニ置キ給ハニラ布フ

恭順後命ヲ奉ス

閣下嘉納アリテラ望マフ

使臣頭目ニシヤノワン

入江文政郎謹啓

早々貴下ニ申届可申候

恐惶教白

三兵教帥之頭

シヤノワン

大田村ニ於テ千八百六十七年四月十五日即我二月十日

ニニストル申下

私留守中メスロ君大田村三兵傳習ヲ司リ候相任ニ申ル共段報告申上ル

貴下御番守中助場大砲初練場ノ用意ニ取掛ル様急度尊令ヲ以テ下シ可被













































三拾伍已下上種

高粱

百石拾伍 以石拾伍石

大麥

以石拾伍 以石百石石

粟

以石拾伍 以石百石

稗

以石拾伍 以石百石

大豆

以石拾伍 以石百石

小麥

以石拾伍 以石百石

合石百石百石

雜穀以百石

大豆百石

村人等如三百四十人

以石百石

口月五日

以石百石拾百石

雜穀之合

百石誰  
如何人

高粱拾伍石  
雜穀三百石

以石拾伍  
以石百石

粟拾伍石

以石拾伍

雜穀百石

以石拾伍

馬或拾石

以石拾伍

一百馬是也

大豆拾伍石

馬飼料

以石拾伍

種豆石

以石拾伍

大豆拾伍石

保命黃拂石

右之進古生食

何誰誰  
何誰誰  
名主印











































之平茶之流石水... 伏系の閣下折閣下文字... 道徳仁義... 拙政... 天下誠大士也

丁卯四月十日  
伏系友 村也

西洋人南島... 此後... 一山... 大洲...

元水戸殿百姓

古時聖象府古記得法名

小室 敬去

植原亮之物

其方以元水戸... 之入... 物... 幸... 何...







